

分野名	専門基礎	科目名	形態機能学 I
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人体の発生、構造の知識を基に、形態を系統的に学ぶ		
目標	人体を常にまるごとみる(見る、看る、観る、診る…)ことができる力を身につける。一般用語と専門用語の使い分けができるようになる。まず、自分自身の身体に興味をもって、人体の構造と機能を理解する。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	おもしろくなる解剖生理 照林社、模型		
履修にあたっての留意点	・へえ！、なるほど！と感動しながら、学習を進めていこう！ ・恥ずかしがらずによみがなをふる。読めれば、自信をもって使うことができる。空書きで名称を覚えよう！ ・友達と一緒に、教えたり、教えてもらったり、楽しみながら学習しよう！ ・図を真似して描きながら、形に注目するだけでなく、大きさや立体的構造も想像できるようになろう！		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	形態機能学とは？ 人体の階層性、解剖学的肢位(解剖学的正位)、人体の3つの面、人体の方向	講義	兼任講師
2.	組織(上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織)とは？ 器官系とは？(人体の生活行動から器官系をイメージしてみよう！)	講義	兼任講師
3.	骨格系 : 軸骨格(頭蓋骨・胸郭・脊柱)と付属肢骨格(上肢と下肢の骨)	講義	兼任講師
4.	筋系 : さまざまな関節の動き(屈曲、伸展、内転、外転他)と骨格筋	講義	兼任講師
5.	循環器系(心臓) : 心臓はどこにある？ 心臓は自力で動ける生きたポンプ	講義	兼任講師
6.	循環器系(血管) : 血液は体中をぐるぐる回っている (動脈・静脈・毛細血管の違いを理解しよう！)	講義	兼任講師
7.	循環器系(リンパ管) : 血管との違いを理解しよう	講義	兼任講師
8.	呼吸器系 : 呼吸筋は肺の相棒 (空気の道である気道と肺の構造を学習しよう！)	講義	兼任講師
9.	呼吸器系 : 内呼吸と外呼吸 (酸素を取り入れて、二酸化炭素を排出するしくみを学習しよう！)	講義	兼任講師
10.	体細胞と生殖細胞、ゲノムマップ (細胞には、いろいろな種類があることを再確認しよう！)	講義	兼任講師
11.	生殖器系 : 男性生殖器の構造としくみ トピックス・ロボット支援手術を学習してみよう	講義	兼任講師
12.	生殖器系 : 女性生殖器の構造としくみ トピックス・オペナースって何をするの？	講義	兼任講師
13.	グループ学習 骨盤模型を使って復習してみよう！	講義	兼任講師
14.	総まとめ: 人体の階層性、部位名、骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、生殖器系	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		兼任講師
16.			

分野名	専門基礎	科目名	形態機能学Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	兼任講師		
目的	人体の発生、構造の知識を基に、形態を系統的に学ぶ		
目標	【一般目標】 解剖学・生理学は、医学・看護学教育の中では根幹をなす基本、土台の学問である。この形態機能学の知識がきちんと把握できないと、その先の社会看護学、臨床看護学を効率よく、的確に身につけることが難しくなる。そのため、自ら学ぶ姿勢、自ら問題解決に当たる姿勢を一日も早く身に付けることが大切である。さらに、解剖見学実習を通して人体の精緻な構造を学ぶとともに、「献体」の理念を理解・尊重することで「生命の尊厳」、「医・看護の倫理」を直視し、看護師になる人間として、高いレベルのモラルを習得する。 生体機能・恒常性は、複雑な機構により制御・統御されており、その仕組みを形態科学の観点から習得し、生理学的機能と合わせて形態－機能を一体化して学習するようにし、生体をダイナミックに、立体的に捉える習慣を身に付けることを目標とする。 ※【行動目標】については講義にて配布		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	トートラ人体解剖生理学 原書10版 丸善出版 新看護生理学テキスト 南江堂		
履修にあたっての留意点	・講義の復習をしっかりと行う。□ ・わからない漢字を調べ、書ける様にしておくこと。□ ・専門用語をしっかりと覚える工夫を自分で行うようにする。□ ・解剖見学では看護を学ぶ者としての態度で臨むこと。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	消化器系Ⅰ	講義	兼任講師
2.	消化器系Ⅱ	講義	兼任講師
3.	内分泌系Ⅰ（視床下部、下垂体、甲状腺）	講義	兼任講師
4.	内分泌系Ⅱ（睪臓から生殖内分泌系）	講義	兼任講師
5.	神経系Ⅰ（神経細胞、静止膜電位、活動電位など）	講義	兼任講師
6.	神経系Ⅱ（中枢神経系）	講義	兼任講師
7.	神経系Ⅲ（末梢神経系）	講義	兼任講師
8.	神経系Ⅳ（自律神経系）	講義	兼任講師
9.	泌尿器系Ⅰ	講義	兼任講師
10.	泌尿器系Ⅱ	講義	兼任講師
11.	感覚器Ⅰ（総論・眼）	講義	兼任講師
12.	感覚器Ⅱ（眼・耳）	講義	兼任講師
13.	解剖見学	実習	兼任講師
14.	解剖見学	実習	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	形態機能学Ⅲ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	人体の発生、構造の知識を基に、機能を系統的に学ぶ		
目標	人間の複雑な生体機能を学ぶことで、看護現場で患者の病気やその原因、病態を理解し、質の高い看護を提供する能力を養うことを目的とする。そのために、基本的な生理機能がどのように人体機能に関連し、これらが破綻した時に病態や疾患とどう関係するかの理解を深める。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	新看護生理学テキスト 南江堂		
履修にあたっての留意点	・予習して講義を受けること。□ ・専門用語については自分で調べ、漢字で書けるようにしておくこと。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	細胞生理学、体液	講義	兼任講師
2.	神経細胞の膜興奮と興奮伝導、シナプス伝達様式について	講義	兼任講師
3.	血液(主に細胞成分について)	講義	兼任講師
4.	血液凝固と血液型について	講義	兼任講師
5.	呼吸	講義	兼任講師
6.	酸塩基平衡	講義	兼任講師
7.	免疫系について	講義	兼任講師
8.	腎臓(尿生成と排泄)	講義	兼任講師
9.	体性感覚	講義	兼任講師
10.	味覚、嗅覚、聴覚、平衡覚	講義	兼任講師
11.	視覚	講義	兼任講師
12.	脳の高次機能、運動	講義	兼任講師
13.	血管(循環系)	講義	兼任講師
14.	自律神経	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	形態機能学Ⅳ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	通年
担当教員	兼任講師		
目的	人体の発生、構造の知識を基に、機能を系統的に学ぶ		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	新看護生理学テキスト 南江堂		
履修にあたっての留意点	・形態機能学Ⅰの内容を復習して講義を受けること。□ ・専門用語については自分で調べ、漢字で書けるようにしておくこと。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	自律神経系について	講義	兼任講師
2.	胃と消化	講義	兼任講師
3.	十二指腸・肝臓・胆のう・膵臓	講義	兼任講師
4.	神経の構造と機能	講義	兼任講師
5.	小腸・大腸と吸収	講義	兼任講師
6.	内分泌総論と副腎系ホルモン	講義	兼任講師
7.	中枢神経系の機能①	講義	兼任講師
8.	成長ホルモンと甲状腺ホルモン	講義	兼任講師
9.	中枢神経系の機能②	講義	兼任講師
10.	プロラクチン・オキシトシンと性腺系	講義	兼任講師
11.	血糖調整機能	講義	兼任講師
12.	体温調節	講義	兼任講師
13.	心電図(正常と異常)	講義	兼任講師
14.	血圧制御	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	代謝栄養学 I
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	人間の生体を構成する物質の生成・分解、生体の恒常性について学ぶ。 人間の生命を支える栄養素の種類、各栄養素の栄養的役割、エネルギー代謝を学ぶ。 カテーテルを用いて栄養素の補給を消化管に挿入する方法、血管に栄養剤を直接挿入する方法について学ぶ。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 人体の構造と機能2 生化学 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	代謝総論－基礎化学、基礎細胞生物、代謝と生体のエネルギー タンパク質の構造と機能	講義	兼任講師
2.	酵素 ビタミン、無機質	講義	兼任講師
3.	糖質の構造と機能 糖質代謝	講義	兼任講師
4.	脂質の構造と機能 脂質代謝	講義	兼任講師
5.	タンパク質代謝 ポルフィリン代謝と異物代謝、活性酸素	講義	兼任講師
6.	核酸・ヌクレオチドの代謝 遺伝情報	講義	兼任講師
7.	栄養療法 経管栄養・輸液	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	専門基礎	科目名	代謝栄養学Ⅱ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	食習慣が誘因となる疾患と食習慣の関連を学び、疾患の増悪を防止し、合併症を防ぐことの重要性、治療食と法制度の関連を学ぶ。 実際の治療食を料理する。		
目標	・栄養アセスメントができる ・糖尿病食品交換表の内容を理解し、調理実習に生かすことができる		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 別巻 栄養食事療法 医学書院 配布プリント		
履修にあたっての留意点	・調理実習は実習室で行います。又、班分けをして、グループごとで行います。 ・講義の進み具合により、講義内容を変更する場合があります。 ・成績は単位修得試験100%		

No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	栄養食事療法 概要 食生活・チーム医療・アセスメント	講義	兼任講師*
2.	栄養食事療法の実際と各論 保険制度・病人食・栄養補給法	講義	兼任講師*
3.	栄養食事療法の各論 呼吸器・循環器・消化器(前半)の栄養食事療法	講義	兼任講師*
4.	栄養食事療法の各論 消化器(後半)・腎・代謝性疾患の栄養食事療法	講義	兼任講師*
5.	栄養食事療法の各論と実習概要 小児・妊婦・糖尿病の栄養食事療法と調理実習の説明	講義	兼任講師*
6.	調理実習 (糖尿病1800カロリーの食事)	調理実習	兼任講師*
7.	調理実習 (糖尿病1800カロリーの食事)	調理実習	兼任講師*
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	専門基礎	科目名	病理学
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	健康から疾病に至る変化のプロセスを知り、病因と病変の特徴について系統的に学ぶ		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進1病理学 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	病理学を学ぶ	講義	兼任講師*
2.	細胞組織の損傷・老化と死	講義	兼任講師*
3.	病理・腫瘍1	講義	兼任講師*
4.	病理・腫瘍2	講義	兼任講師*
5.	病理・腫瘍3	講義	兼任講師*
6.	循環障害	講義	兼任講師*
7.	炎症・再生	講義	兼任講師*
8.	感染症	講義	兼任講師*
9.	代謝障害 先天異常と遺伝性疾患	講義	兼任講師*
10.	各論1 循環器	講義	兼任講師*
11.	各論2 血液・呼吸	講義	兼任講師*
12.	各論3 呼吸・消化	講義	兼任講師*
13.	各論4 肝臓・胆管・泌尿器	講義	兼任講師*
14.	各論5 内分泌・神経・筋・その他	講義	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	微生物学
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	1	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	病原性細菌、ウイルス、真菌、原虫についての一般的性状及び特徴、病原体と疾患について、感染と生体防御、感染対策について学ぶ。		
目標	病原微生物について正しく理解し、将来患者さんやその家族に分かりやすく説明できるようになる。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	微生物学総論・感染症について	講義	兼任講師
2.	真菌・原虫・寄生虫 総論・各論	講義	兼任講師
3.	ウイルス学総論	講義	兼任講師
4.	ウイルス学各論 RNAウイルス	講義	兼任講師
5.	ウイルス学各論 DNAウイルス・脳炎・ワクチン	講義	兼任講師
6.	感染と感染症	講義	兼任講師
7.	感染に対する生体防御機構①	講義	兼任講師
8.	感染に対する生体防御機構②	講義	兼任講師
9.	滅菌と消毒/検査と診断	講義	兼任講師
10.	細菌学総論①	講義	兼任講師
11.	細菌学総論②	講義	兼任講師
12.	細菌学総論③	講義	兼任講師
13.	細菌学各論①	講義	兼任講師
14.	細菌学各論②	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	疾病論 I
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	疾病がもたらす身体内部の変化を理解し、疾病の診断と治療を学ぶ		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門Ⅱ 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	リンパ・造血器系①□ 血液の生理と造血のしくみ・主要疾患と病態生理・検査法 血液型と輸血	講義	兼任講師*
2.	リンパ・造血器系②□ 造血器腫瘍治療の基本理念・疾患の理解(赤血球系の疾患)	講義	兼任講師*
3.	循環器系①□ 循環器疾患の基礎・解剖	講義	兼任講師*
4.	呼吸器系① i) 症状とその病態生理、検査と治療・処置 ii) 感染症	講義	兼任講師*
5.	リンパ・造血器系③□ 白血球系の疾患(白血病・骨髄異形性症候群・骨髄増殖性腫瘍)	講義	兼任講師*
6.	循環器系②□ 虚血性心疾患	講義	兼任講師*
7.	循環器系③□ うつ血性心不全とその原因(弁膜症)	講義	兼任講師*
8.	リンパ・造血器系④□ リンパ節内系疾患・出血性疾患	講義	兼任講師*
9.	呼吸器系② 呼吸器腫瘍1	講義	兼任講師*
10.	呼吸器系③□ i) 間質性肺疾患 ii) 気道疾患 iii) 肺血栓塞栓症	講義	兼任講師*
11.	循環器系④□ 心電図と不整脈	講義	兼任講師*
12.	呼吸器系④ 呼吸器腫瘍2	講義	兼任講師*
13.	呼吸器系⑤□ i) 呼吸調節に関する疾患 ii) 肺・血管の形成異常 iii) 胸部外傷	講義	兼任講師*
14.	循環器系⑤□ 動脈疾患・血圧異常	講義	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	疾病論Ⅱ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	疾病がもたらす身体内部の変化を理解し、疾病の診断と治療を学ぶ。		
目標	科学的根拠に基づいて臨床判断し、必要な看護を実践するための基礎的能力を育成する。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院		
履修にあたっての留意点	ポイントをおさえて学習すること。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	骨・関節・筋系① 骨粗鬆症・腰痛疾患・検査・ギプス・手術一般	講義	兼任講師*
2.	骨・関節・筋系② 神経・腱・炎症性疾患	講義	兼任講師*
3.	骨・関節・筋系③ 運動器・整形外科・外傷総論	講義	兼任講師*
4.	麻酔学① 全身麻酔(麻酔の3大要素・モニター・気管挿管・合併症・看護師の役割)	講義	兼任講師*
5.	脳神経系① 脳の解剖、脊髄・末梢神経の病気	講義	兼任講師*
6.	骨・関節・筋系④ 先天性疾患・神経疾患	講義	兼任講師*
7.	脳神経系② 頭部外傷、脳腫瘍、機能的脳神経外科	講義	兼任講師*
8.	麻酔学② 和ケア	局所麻酔・ペインクリニック・緩和ケア	兼任講師*
9.	脳神経系③ 脳血管傷害、高血圧性脳出血、くも膜下出血	講義	兼任講師*
10.	脳神経系④ 脳梗塞、一過性脳虚血発作、もやもや病	講義	兼任講師*
11.	脳神経系⑤ 脳神経内科に必要な解剖・症候学・検査	講義	兼任講師*
12.	脳神経系⑥ 各論【認知症(アルツハイマー病、レビー小体型認知症など)】	講義	兼任講師*
13.	骨・関節・筋系⑤	講義	兼任講師*
14.	脳神経系⑦ 各論 (パーキンソン病・パーキンソン症候群・ALS・ギランバレー症候群)	講義	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	疾病論Ⅲ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	前期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	疾病がもたらす身体内部の変化を理解し、疾病の診断と治療を学ぶ。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院□ 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院□ 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	内分泌・代謝① 内分泌①	講義	兼任講師*
2.	消化器系① 消化器・胃・食道の内容	講義	兼任講師*
3.	内分泌・代謝② 内分泌②	講義	兼任講師*
4.	消化器系②「腸および腹膜疾患」国試過去問題を用いての講義(1. 解剖生理・診察・検査 2. 食中毒・腸炎 3. イレウス 4. 虫垂炎)	講義	兼任講師*
5.	乳腺① 乳がんの疫学・病態、検診、遺伝性乳がん	講義	兼任講師*
6.	内分泌・代謝系③ 糖尿病①	講義	兼任講師*
7.	消化器系③ 胃・食道を中心とした消化のパワーポイントの授業	講義	兼任講師*
8.	消化器系④「腸および腹膜疾患」国試過去問題を用いての講義(5. 炎症性腸疾患 6. 大腸がん 7. 肛門疾患 8. ストーマ)	講義	兼任講師*
9.	放射線医学① 放射線総論・放射線防護・放射線治療	講義	兼任講師*
10.	内分泌・代謝系④ 糖尿病②	講義	兼任講師*
11.	消化器系⑤ 肝炎について	講義	兼任講師*
12.	消化器系⑥ 肝臓と胆・膵疾患	講義	兼任講師*
13.	放射線医学② 放射線治療・画像診断学	講義	兼任講師*
14.	乳腺② 乳がんの手術・薬物療法、チーム医療	講義	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	疾病論Ⅳ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	疾病がもたらす身体内部の変化を理解し、疾病の診断と治療を学ぶ。		
目標	腎・泌尿器系: 国家試験レベルの問題に対応できる。 皮膚科: 皮膚科学の総論・各論を理解する。 耳鼻咽喉科: 耳鼻咽喉科領域の疾患の病態生理を理解し、その診断と治療を学ぶ。 女性診療科・産科: 女性の体の仕組みを理解し、女性特有の病気について知る。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護 専門Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	眼科① 眼の構造と機能	講義	兼任講師*
2.	眼科②□ 疾病論	講義	兼任講師*
3.	腎・泌尿器系疾患①	講義	兼任講師*
4.	腎・泌尿器系疾患② 1) 症状とその病態生理 2) 腎不全	講義	兼任講師*
5.	腎・泌尿器系疾患③	講義	兼任講師*
6.	腎・泌尿器系疾患④	講義	兼任講師*
7.	皮膚科①□ 皮膚科学総論・各論	講義	兼任講師*
8.	耳鼻科①□ 解剖・生理(耳・鼻・咽喉頭)	講義	兼任講師*
9.	女性生殖器①□ 症状・病態生理・検査・処置	講義	兼任講師*
10.	皮膚科② 皮膚科学各論	講義	兼任講師*
11.	女性生殖器② 女性生殖器疾患をもつ患者の姿・特徴 女性生殖器の構造と機能	講義	兼任講師*
12.	女性生殖器③□ 器質性疾患(染色体異常・外性器の異常・子宮、卵巣の良性腫瘍)	講義	兼任講師*
13.	女性生殖器④□ 機能性疾患・感染症	講義	兼任講師*
14.	耳鼻科②□ 疾患(耳・鼻・咽喉頭)	講義	兼任講師*
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	薬理学 I
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	薬物の特徴、薬理作用、薬物の管理についての基本的知識を学ぶ		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進3 薬理学 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	薬理学総論	講義	兼任講師
2.	抗感染症薬	講義	兼任講師
3.	末梢神経作用薬	講義	兼任講師
4.	呼吸器・消化器系薬	講義	兼任講師
5.	心臓・血管系に作用する薬物1(高血圧・狭心症)	講義	兼任講師
6.	心臓・血管系に作用する薬物2(心不全・不整脈)	講義	兼任講師
7.	糖尿病・脂質異常症	講義	兼任講師
8.	免疫治療薬	講義	兼任講師
9.	抗アレルギー・抗炎症薬	講義	兼任講師
10.	中枢神経系に作用する薬物1(全身麻酔・てんかん)	講義	兼任講師
11.	中枢神経系に作用する薬物2(精神疾患・変性疾患)	講義	兼任講師
12.	抗がん薬・麻薬性鎮痛薬	講義	兼任講師
13.	血液、内分泌に作用する薬物	講義	兼任講師
14.	救急の際に使用される薬物、消毒薬	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	薬理学Ⅱ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師* *実務経験のある教員		
目的	薬剤の取り扱いと服薬指導の実際を学ぶ。		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	特になし		
履修にあたっての留意点	特になし		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	医薬品安全と薬剤の適正使用	講義	兼任講師*
2.	注射薬について	講義	兼任講師*
3.	自己注射薬の正しい使い方～インスリン篇～	講義・演習	兼任講師*
4.	点眼薬の正しい使用方法～白内障、緑内障とその病態～、 吸入薬(吸入器)の正しい使用方法～喘息・COPD篇～	講義・演習	兼任講師*
5.	循環器の薬物療法管理(抗不整脈薬、抗凝固薬など)	講義	兼任講師*
6.	薬剤師の感染制御(消毒薬、抗菌薬)	講義	兼任講師*
7.	がん薬物療法と緩和医療について	講義	兼任講師*
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	専門基礎	科目名	看護臨床判断の基礎
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	人体の構造と機能、及び疾病と治療に関する基本的な理解のもと、適切な看護を実践するために必要な臨床判断能力を養う。		
目標	1. 患者の状態変化に気づくことができる。 2. その患者の既往歴や来院理由、主訴に注目し、患者の全体像の把握に努めることができる。 3. 患者から収集すべき情報(主観的・客観的)が何かを考えることができる。 4. なぜその症状を呈しているのか、これまでに学習した知識を活用しながらアセスメントできる。 5. なぜその治療が行われているのか理解し、その治療の目的と効果について理解できる。 6. 患者に必要な看護について理解できる。		
成績評価の方法と基準	①客観試験 100%		
使用テキスト・教材	1. 小澤知子:アセスメントに自信がつく臨床推論入門、メディカ出版、2022.		
履修にあたっての留意点	・当科目では、患者に生じる様々な症状が、どのような機序で起こっているのかを理解し、必要な看護に結びつけることを目的として、演習を中心に進めます。 ・臨地実習や看護師国家試験の状況設定問題、就職後の臨床業務に必要な知識活用と判断の基礎を身に着けます。積極的姿勢で参加してください。		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	1. 看護に必要な臨床判断能力 1)臨床判断とは何か 2)臨床判断のプロセス	講義	兼任講師
2.	2. 看護師が活用する知識と臨床推論 (事例:高齢者)1)データ活用と解釈 2)症状観察と原因探索 3)病態生理と治療法 4)臨床推論	事例を活用した講義と説明	兼任講師
3.	3. 看護場面で遭遇する事例の理解と解釈 4. 適切な看護の選択と実践5. 患者の反応の観察と看護の評価<事例:発熱・高体温>	事例1演習と解説	兼任講師
4.	第3回に準じる <事例:低血圧・高血圧>	事例2演習と解説	兼任講師
5.	第3回に準じる <事例:手足のしびれ・麻痺>	事例3演習と解説	兼任講師
6.	第3回に準じる <事例:低血糖 >	事例4演習と解説	兼任講師
7.	第3回に準じる <事例:呼吸困難 >	事例5演習と解説	兼任講師
8.	単位修得試験	筆記試験	兼任講師
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			

分野名	専門基礎	科目名	保健医療学
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	保健・医療と健康の概念と動向について理解し、保健に関する動態と医療の倫理を学ぶことで看護職として保健活動を考えることができる		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 健康支援を社会保障制度2 公衆衛生 医学書院		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	健康指標の基礎資料 人口静態統計	講 義	兼任講師
2.	健康の定義と予防医学	講 義	兼任講師
3.	健康状態や医療水準を把握する 人口動態統計(死亡動向)	講 義	兼任講師
4.	健康の保持と増進	講 義	兼任講師
5.	母子保健(1) 水準指標(出生と母子保健に関わる死亡水準)	講 義	兼任講師
6.	健康日本21	講 義	兼任講師
7.	母子保健(2) 母子保健施策と健やか親子21	講 義	兼任講師
8.	保健・医療の動向	講 義	兼任講師
9.	高齢者の健康状況	講 義	兼任講師
10.	産業保健	講 義	兼任講師
11.	感染症対策	講 義	兼任講師
12.	保健・医療の動向～食と健康	講 義	兼任講師
13.	健康のリスク因子	講 義	兼任講師
14.	疫学	講 義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	関係法規
単位数	2	授業時間数	30
開講年次	3	開講期間	前期
担当教員	兼任講師		
目的	法の基礎知識ならびに保健医療関係法規を学び、医療従事者としての業務と責任、さらに社会的役割について理解する。		
目標	保健医療関係法規に関する知識を確実に身につけ、国家試験合格を目指す。		
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4 医学書院		
履修にあたっての留意点	テキスト必携		
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	法の概念、法の種類、基礎知識、衛生法の沿革、厚生行政の概要	講義	兼任講師
2.	看護法①保健師助産師看護師法:沿革、改正、付属法令、免許、定義	講義	兼任講師
3.	看護法②保健師助産師看護師法:免許、業務、義務、罪則規定、看護師等の人材確保促進法	講義	兼任講師
4.	医事法①医療法:定義、医療計画、安全の確保、従業員数、諸記録保持	講義	兼任講師
5.	医事法②医療をささえる法(臨床研究、移植医療など関連法) 保健衛生法①地域保健法、健康増進法	講義	兼任講師
6.	保健衛生法②精神保健福祉法、母子保健法、学校保健安全法など 保健衛生法③感染症に関する法、食品に関する法	講義	兼任講師
7.	感染症に関する法:感染症法、予防接種法、検疫法 新型インフルエンザ等に関する特別措置法	講義	兼任講師
8.	食品に関する法:食品安全基本法、食品衛生法、食品表示法 環境衛生法:水道法など 環境法:公害防止の法	講義	兼任講師
9.	薬務法①医薬品医療機器等法 薬害被害者の救済に関する法、人の組織を用いた医療関連法	講義	兼任講師
10.	薬務法②麻薬・大麻・覚せい剤など取締りに関する法	講義	兼任講師
11.	労働法:労働基準法、育児介護休業法、労働安全衛生法、労災補償保険法、個人情報保護法	講義	兼任講師
12.	社会保険法:健康保険法、介護保険法、各種手当法	講義	兼任講師
13.	福祉法:生活保護法、児童・高齢者・障害者関連法 民法(成年後見制度)	講義	兼任講師
14.	医療過誤:法的責任、事例評価 関係法規まとめ	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	社会福祉論Ⅰ
単位数	1	授業時間数	30
開講年次	2	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	社会福祉の理念、制度の歴史と現行制度を理解し、看護職としてサービスを活用する能力を身につける		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	(第1章)社会保障制度と社会福祉①	講義	兼任講師
2.	(第2章)現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義	兼任講師
3.	(第1章)社会保障制度と社会福祉②	講義	兼任講師
4.	(第3章)医療保障	講義	兼任講師
5.	(第9章)社会福祉の歴史	講義	兼任講師
6.	(第5章)所得保障	講義	兼任講師
7.	(第6章)公的扶助	講義	兼任講師
8.	(第7章)社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)	講義	兼任講師
9.	(第7章)社会福祉の分野とサービス(児童福祉)	講義	兼任講師
10.	(第7章)社会福祉の分野とサービス(高齢者福祉)	講義	兼任講師
11.	(第4章)介護保障①	講義	兼任講師
12.	(第4章)介護保障②	講義	兼任講師
13.	(第8章)社会福祉実践と医療・看護①	講義	兼任講師
14.	(第8章)社会福祉実践と医療・看護②	講義	兼任講師
15.	単位修得試験		
16.			

分野名	専門基礎	科目名	社会福祉論Ⅱ
単位数	1	授業時間数	15
開講年次	3	開講期間	後期
担当教員	兼任講師		
目的	事例を通して社会制度の実際を学ぶ		
目標			
成績評価の方法と基準	単位修得試験100%		
使用テキスト・教材	系統看護 専門基礎 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉		
履修にあたっての留意点			
No	学習内容	学習方法	担当教員
1.	事例検討	講義	兼任講師
2.	事例検討	講義	兼任講師
3.	国家試験対策	講義	兼任講師
4.	国家試験対策	講義	兼任講師
5.	国家試験対策	講義	兼任講師
6.	国家試験対策	講義	兼任講師
7.	国家試験対策	講義	兼任講師
8.	単位修得試験		
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
16.			